

芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研修（案）

1. 背景

大野城市芸術文化振興プラン（以下「プラン」という。）では、「芸術文化活動を支える人材の育成」を実行プランのひとつとし、人材の育成を通して、市の芸術文化活動の発展を目指している。しかし、本市では、担い手を育成する場や機会が提供されていないという現状がある。

2. 目的

本市の芸術文化活動を維持、発展していくための担い手として、芸術文化活動をファシリテートできるアーティスト（以下、「ファシリテーター」という。）及び芸術文化の魅力を伝えるレポーター（以下、「レポーター」という。）の育成を目的とする。

3. 実施方法

本市における芸術文化を支える担い手を育成するための効果的な研修のあり方や、継続的に担い手を生み出し、担い手が活躍する仕組みについて研究を行い、ファシリテーターとレポーターを養成する。なお、研究期間は令和5年度と令和6年度の2年間で実施する。

また、実施にあたっては、公益財団法人 大野城まどかぴあにも参加いただき、三者による共同研究として実施する。

4. 育成する人材

ファシリテーター	
求める役割	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化を用いた場でファシリテートを行う能力を身に付ける。 ・地域におけるさまざまな分野の場で、市民が芸術文化に触れる機会を提供し、参加者同士のつながりを創出する。
レポーター	
求める役割	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化の魅力を記事にし、PRする能力を身に付ける。 ・大野城市の芸術文化イベントやアーティストなどを取材し、その魅力を発信することで、芸術文化活動を支える。